

令和 6 年度 第 1 回恵那市廃棄物減量等推進審議会 会議録

日時：令和 6 年 7 月 25 日（木） 午後 1 時 30 分～

場所：災害対策室 A・B

- 1. 開 会
- 2. 委嘱書の交付
- 3. 水道環境部長挨拶
- 4. 会長挨拶
- 5. 議題
 - (1) 恵那市一般廃棄物処理基本計画について（資料 1）
 - (2) 廃棄物減量の取組みについて（資料 1）
 - (3) 恵那市次期総合計画の策定について（資料 2）
- 6. その他
- 7. 閉 会
- 8. 出席者 12 名中 7 名（以下のとおり）

氏 名	選出団体等	備考	出欠
柴原 尚希	中部大学	会長	出席
渡辺 武彦	地域自治区会長会議	副会長	出席
柘植 昭男	地域自治区会長会議		出席
加藤 信之	恵那市社会福祉協議会		出席
山田 哲也	生活協同組合 コープぎふ		欠席
梅村 克利	(株)パローホールディングス		欠席
大山 健史	王子マテリア(株)		出席
高井 盛人	東栄製紙工業(株)		欠席
近江 則明	ケイナクリーン(株)		欠席
別府 裕二	(株)恵那清掃		出席
野原 勝樹	恵那県事務所環境課		出席
水原 健介	中部地方環境事務所		欠席

（順不同）

- 9. 傍聴者の数 0 名

1. 開 会

■事務局（進行） 定刻なので開会する。会議資料はスクリーンに投影する。私は進行の環境課長の磯村です。会議時間は1時間30分程度を想定し、午後3時を終了予定とする。

本日の審議会は委員12名のうち7名出席なので会議が成立している。会議は原則公開とし、会議録を公表する。

2. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 今年度1回目の審議会なので本来なら委員一人一人紹介すべきだが、時間の関係上、新たに委員になられた方のみ紹介する。王子マテリアの大山様、本日欠席だが生活協同組合コープぎふの山田様、中部地方環境事務所の水原様。新たに委員になられた方々には委嘱書を机上配布している。任期は前任者の残任期間で、令和7年3月31日までとなる。

3. 水道環境部長挨拶

■水道環境部長 夏になり気温も上がっている。コロナも流行っている。御自愛いただきたい。

本日は出席ありがとうございます。3名が変更になった。任期は前任者の残任期間となる。審議会は議論の場なので活発な意見を頂きたい。

一般廃棄物の減量、再利用促進に関する事項を審議いただく。一般廃棄物処理基本計画の概要、減量化に向けた取組を紹介する。市民の理解、協力が必要であり、回収方法や取組方についても課題があるので、それについても意見を頂きたい。

情報提供。現在中津川市、恵那市で取り組んでいる、ごみ処理の広域化事業。令和3年度に基本合意書を締結し、今年度急遽検討委員会を立ち上げ、本格的に事業を進めることとなっている。これには中部大学の柴原先生、恵那清掃工業の別府さんが委員として、県事務所の野原さんにはオブザーバーとして参加していただく。明日第1回の検討委員会を開催し、基本構想及び建設候補地について議論していただく。令和15年度の開業に向け取り組む。

また、恵那市には恵那電力株式会社という地域新電力の会社を作っている。この度、阿木川ダムの施設で発電した余剰電力を、恵那電力で買い、8月1日から使用する。再生可能エネルギーとして電力の環境価値も持っているし、地産地消として有効に使っていき

い。

私はほかの業務が急に入ったため退席させていただく。

4. 会長挨拶

■会長 昨年度に引き続き会長を務める。今年度もよろしくお願いします。

廃棄物の減量の会議ということで、具体的に取り組や推進状況をいつも説明いただいている。まず、会議資料をペーパーレスにさせていただき良かった。メンバーも入れ替わり、新たな視点で意見、議論を出していただき活発に討議したい。

■事務局（進行） 「恵那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則」の規定により、会長が議長になると定めているので、議事進行を柴原会長に願います。

5. 議題

（1）恵那市一般廃棄物処理基本計画について（資料1）

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（会長） 質問等あるか。

■委員 地域自治区会長会議から出ている柘植です。ペットボトル。試行的にやっているということだが、目途が立ったら本格実施というのはどういうことか。

それと、中野方を含め現在は4カ所でやっているが、今の状況ではとても、事務所の所長が大変。本当にやるなら、ペットボトルを潰すなら潰す機械を入れないとできない。その辺りはどうするのか。

■事務局 現在試行的に4カ所、中野方、長島小学校、山岡、岩村で進めている。中野方は、一昨日も所長から話があったが、回収量が想定を超えている。入れる場所があふれること、回収する人員確保を懸念している。今まで月1回だったが追いつかないので、袋を大量に用意して、溜まったら施設管理公社の職員が回収に行く。容器、ストックする場所、回収人員を今検証している。7、8月を乗り越えられるか見極め、4地区から意見を聞き、来年度予算の方針を出したい。中野方で困ったことなど、意見を頂きたい。

■委員 事務所からかなり意見を言っていると思う。ペットボトルを潰せということだが、潰せるのは40%ぐらいだと思う。検討の中に、ペットボトルを潰す機械も入れ、初期投資をしないと、破綻する。

■事務局 機械の導入も検討する。

■委員 ペットボトルのことは地域（武並町）で大変期待している。早く集めてほしいと

いう意見をもらっている。一日も早く実施してほしい。

■議長（会長） これは全部トンなのか。重さで管理しているのか。今はかさの話が出ている。体積の情報はないか。処分場が満杯になる話は、そちらが問題になるかもしれない。そういう情報も取れるといい。

■委員 弊社に関わる部分がある。活動されたことで雑紙が増えているとのこと。弊社でも雑紙はまだかなり眠っている部分があると思う。アピールをもっとやっていただくと集まる。新聞や雑誌回収量が、新聞等を読まなくなってきたので、そうすると、この部分が下がってくる。雑紙により回収量が上がると思う。

■委員 12 カ所の集積所の雑紙の回収量のデータが個別にあるか。中野方はP T Aや町民が雑紙を多く出してくれている。ほかの地域はどうか知りたい。

■事務局 助成金を出している関係で個別のデータがある。集計したのがこの全体のものになる。後に示す。

■議長（会長） 雑誌、新聞はこれから減る。雑紙や段ボールは増えると思う。その対応をするといい。

（２）廃棄物減量の取組みについて（資料１）

①フードドライブ

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長） １つ目の取組について。

■委員 フードドライブでお世話になっている社協の加藤です。始まった当初から見ると、寄附量が減っている。定期的に市で広報に載せるなりして周知してほしい。活用方法も周知するのが我々の仕事だと思っている。

最近、経済的に困っている人だけではなく、子育て支援で、お米がないから欲しいとかいう話がある。地域で配食サービスをやっている人から、調味料はないとか、多岐にわたる活用ができています。皆さんのお気持ちは活用されている。

■議長（会長） 半年前には、月ごとの変動があるという話だったが、今は減ったということか。その中で、今年度、他店舗や公共施設への展開ということだが、目途はあるのか。

■委員 バローさんから話があり、V ドラッグにもポストを置きたいということで、我々も回収があるので広すぎても対応できないので、恵那店 1 店舗だけなら事務所からも近いので対応できるので、その辺から様子を見ましょうという話をしている。

②ペットボトルの水平リサイクル

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■委員 啓発チラシの内容で、ラベルを外す、キャップを外す、できれば潰すということが徹底されてきているか。

それから、例えば燃えるゴミ、不燃物の中にペットボトルを入れる人がまだいるか。

■事務局 持ち込みゴミとして、可燃物、不燃物、布類、金属類の中にペットボトルと、ごっちゃで持ってくる人がある。本当にペットボトルのきれいなものがある程度か溜まっていれば資源として生かせるが、汚いものが入っていると、可燃ゴミと一緒に処理している。そこまでの徹底が難しい。地域で試行的にやっている 4 カ所でペットボトル専用で回収されるので、それはきれいだが、その他では混ざってしまう。

■議長（会長） これはいつからか。

■事務局 今年 4 月から。

■委員 中野方では去年から試行的にやっているが、排出拠点に持ってくるものはやってくれている。併せて、月末に回収するものも徐々にそうってきているので、やはり回収拠点を早く開いて徹底していけば、みんなそれに従ってくると思う。

■委員 うち事業系ゴミも扱っている。お客様によって意識が全然違う。事業系もペットボトルは恵那市に合わせてサントリーに出せるように極力やっている。お客様の中でも、事前に把握して対応してくれるところと、お願いしてもやってくれないところがある。気にしない人は、広報も見ないし、情報も取りにいけないので、なかなか難しい。

■議長（会長） 環境教育の方でやっていければ。事業系というのは、自販機のごみ箱は。

■委員 事業系となる。

■議長（会長） それは、潰しているとは思えない。

■委員 事業系でも、適したものと適してないものがある。コンビニのものは中身が残っていたりする。それを分別するのは厳しい。それは目をつぶって別ルートに回している。きれいにできるところだけをサントリーに回している。

③廃食用油の回収促進

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長） （回収量が）減り過ぎると本末転倒になることがあるので慎重に見極める必要がある。回収量を増加させた方がいいのかどうか。そもそも減っているようだが。

■委員 土日月の 3 日間が回収日で、26 拠点に人が貼り付いているのか。

■事務局 金曜日に、拠点に回収のポリタンク、最近はペール缶を置いておく。あとは無人で市民に開放して入れてもらう。火曜日に回収する。エコプラザは、開いている時間帯

で、ここには職員がいて、常に出せる。そこもポリタンクに入れる。

■委員 それ以外のときに管理ができないので期間限定ということだと思う。出す方は、いつ出せるかが、出すか出さないかの判断になる。置きっぱなしも良くないので何がいいか。（家庭では）あまり量がないのだと思う。給食センターが多い。各家庭から集めるのがどこまで効率的なのか。

■委員 今後の取組として、廃油をスーパーまで持っていく人はあまりいないと思う。毎月の不燃物のとき、家庭のごみをみんな持っていくから、このときにポリ缶を置くのが一番効果的だと思う。

■議長（会長） 今、置くのと回収が2回。なので、置く方は別のごみの回収と兼ねられるという意見だと思う。確かにそうだと思う。

■委員 スーパーに設置するというのは、スーパーから出る産廃の油も入っているのか。スーパーは総菜で使うので給食センター並みに回収できると思うが、産廃になるのか。それも入れられるなら、それも併せて民間の人が持ってきたものものという考えになる。

■事務局 産業廃棄物については考えていない。そちらは給食センターのような形で個別にやっていく。あくまで家庭から出る油。お客さんがスーパーに来たついでにという感じ。全国的にもスーパーで扱っている例はネットでも出てくるが、バローさんは「スーパーで扱うのは人を置かないといけなくなる」ということで、全国的にも少ないので、難しいと思う。

④生ごみの減量化

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（会長） バッグの基材というのとは何か。

■事務局 写真の右下にあるもので、植物からできた独特なもので、2千円とかなり高い。通常数百円。

■議長（会長） バッグは1回買うだけで、基材を何度も買うのか。

■事務局 堆肥化するともう一度入れる。年に数回入れないといけない。

■議長（会長） それが高いと感じると。

■事務局 そうだ。ただ、性能が良く、どんどん分解し、臭いが発生しない。

■議長（会長） どの案を取るといいか分析することになるか。

■事務局 一人一人やるか集団で取り組むといいのかを探っている。

■委員 生ごみを出す各家庭のメリットは何か。生ごみ袋を買って出しているが、各家庭のコストがそれより安くなればいいと思うが。それよりコストが上がったり面倒だったりすれば、やらないと思う。

■事務局 メリットはごみが減ること。恵那市の有料のごみ袋の使用量が多少減る。それと、生ごみの処理場があると、家の中に置いて、においが発生したり虫が付いたりということがなくなる。また、週 2 回ごみ回収しているが、ごみが減って、生ごみがなければ、ごみ出しの回数を減らせるし、水分がなくなると軽くなる。その代わり生ごみを処理する手間はかかるが、どちらがいいか個人の判断になる。

■議長（会長） 確かに手間がかかるだけかもしれない。もう少しモチベーションが上がる何かがあるといい。

■委員 農家で有機栽培を進めている人が多いので、これは有機栽培用の肥料に適している。そちらに使えるように、そういう農家がいち取ってくれるという循環を作らないと、このままでは市民は続いていかないと思う。

■議長（会長） 補助も大事かもしれないが、出来上がった堆肥と何かを交換するという方が取り組みやすい。

■委員 2,300 万という数字があったが、1 割と聞こえたが。C 案だとどの程度のゴミが減る想定か。ペイできるのか。

■事務局 費用対効果はまだ出していない。10%削減すると 2,300 万となる。

■議長（会長） 2,300 万の効果があるなら還元することも検討した方がいい。出す側のメリットが感じられる方策を検討いただきたい。

■委員 バッグ型コンポストのモニター期間が 56 日間で臭いもないということだが、何月にやったものか。

■事務局 12 月から 1 月。発酵が進まないという意見もあった。温かい室内に置けば順調に進むということだ。

■委員 夏場だと臭いはどうか、分からないか。

■事務局 今もモニターさんと定期的に話している。先日バッグを持ってきたが、鼻を近づければ臭いがするかなという程度。腐敗臭はない。ふたをしておけば虫も入らない。

■議長（会長） その他、意見はあるか。

■委員 ペットボトルについて。サントリーと提携したことで、ペットボトルの回収を増やした方がいいのか。

広域化はいつ頃が目途か。

マイクロプラスチック問題。去年の資料には廃プラスチックの処理の件があったが、今反省されている。人体に影響があるので、恵那市としても取組ができるといい。

■事務局 ペットボトル回収頻度は、かさを取るの、市民感覚としては増やしてほしいというところ。回収拠点に出せる方策を考えている。それと、月 1 回の今の資源回収のペースは変える予定はない。

■事務局 広域化は、令和 15 年稼働に向けやっていきたい。

ペットボトルは、恵那市がボトル to ボトルに変えた理由は、ペットボトルをリサイクルしてもその先が循環されないこと。それではだめ。ペットボトルが多く出てくる方がいいのかどうかは難しいところだが、意識づけの中で行なっていく。

■事務局 廃プラスチックは前回から進展がないので今回の議題から外した。今考えているのは、水素を作るためにプラスチックを原料にするというもの。これも広域的な中部ブロック程度のことで、岐阜県の中にそういう拠点があれば、恵那市でプラスチックを集めて持ってきてくれませんかという話が進んでいる。ただそれに向けてどのような設備や費用が必要か検討している。マイクロプラスチックは、各務原市で起こっているようなものはないし、不法投棄されたプラスチックが自然界で中途半端に分解されて川に入っていくところなので、環境美化、不法投棄の対策で何とかしていきたい。

■委員 広域化については、14 年までは基本計画はこのままで、施設ができるときに見直すということになると思う。R D F 化を恵那市はやっていて、ごみを捨てる時、個人情報があると、燃やすとなくなって安心かなと思っているが、固形だと何かで漏れてしまうんじゃないかと思う。それはないだろうが。もし次期の焼却場が、燃やすのか R D F なのか、決まっていなと思うが、あれば教えてほしい。

■事務局 今後順に施設のことなど決めていく。今は何も決まっていない。施設が稼働する時期に近づくに従って、その取組も変わってくると思うのでそこは変更しながらやっていく。

■議長（会長） これは減量の審議会なので、減らせばいいという話と、適切に循環すること、不法投棄も含めて、元に戻ることも大事ということで、水平リサイクルにも取り組んでもらっている。仕組みづくりが大事だということ。

■委員 プラスチックの広域化。それはプラスチック資源循環促進法関係で認定事業者から営業があったような話なのか。

■事務局 民間からの声掛けがあって、検討会に、市町村から意見をくださいということに参加している。県内で 7 つの自治体が入っている。岐阜県庁の廃棄物担当のところも入っている。

■委員 ということは、製品プラがメインなのか。

■事務局 そうだ。

（３）恵那市次期総合計画の策定について（資料２）

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長） 一人一言お願いします。20 年後、どんな恵那市になってほしいか。その

ために何をやらなければいけないか。

■委員 非常に難しい課題だ。中野方町は中山間地の棚田が広がっている地域。令和 3 年には農林水産省から中野方町全域の棚田を棚田遺産に認定されている。そういうことで環境をずっと守っていききたい。太陽光を田んぼや畑の中にどんどん増やしてもらうのは困る。そういうことも新しい総合計画の中では、景観の部分もきちんと入れてほしい。ただ、太陽光に反対しているわけではない。付けられるところには付けていいが、景観が悪くなるところには付けないようにしてほしい。

■委員 私は恵那に来て何カ月しか経ってない。外から来て思うのは、自然が豊か。外部の人もそれを目当てに来る人がいると思う。そこを大事に 20 年後も維持してほしい。自然を守るべきところは守り、開発すべきところは開発する。そこは市で規制など具体的に地区を決めてやるのがいい。

■委員 私も恵那市民ではない。今のキーワードは持続可能だと思う。それを考えていくことだと思う。

■委員 ずっと恵那で生まれ育ってきたので恵那への思いは強い。最近私が力を入れているのは、災害廃棄物の処理。無償で支援すること。能登半島地震の能登にも 3 回行った。災害がいつどこで起きてもおかしくない。南海トラフもいつか来る。起きたときに、廃棄物分野では、いかに迅速に廃棄物を処理して、被害に遭った人が早く立ち直るように、備える力を今のうちから付けて、いざというとき恵那市に住んでいて良かったと皆さんに思ってもらえるようにできたらいい。

■委員 私は福祉分野なので環境のことは難しいのだが。高齢者のごみ出し問題がこの 20 年ぐらいでかなり深刻になると業務上思っている。先日空き家の片付けをプライベートで手伝いに行った。市外だが、今まで何をしていたんだろうという状態だった。これからそういう家が増え、片付けようにも片付けられない家が増える気がする。何らかの支援をこれからは考えないといけない。行政も地域も考える必要がある。

■委員 恵那市民の誇りをもってこれから 10 年後も生きていけるといいという思いだ。そのために市民一人一人が環境負荷を減らす努力をしてすばらしい景観を守っていけるといい。

■議長（会長） （20 年後は）2044 年。SDGs の目標が 30 年。CO2 は 50 年が目標。環境の問題はいろいろ課題が出ていると思うが、持続可能ということでは、温暖化、生物多様性、廃棄物の循環の大きく 3 つ。多分 20 年後もそうなので、その対応は粛々と進めてもらえるといい。ただ、年齢構成が決定的に変わっている。そのとき住みよい街の造りになっているかどうか。集約するところは集約するというまちづくりを、環境だけでなく財政面でもするといいいので、そこを計画に入れていただけるといいと思う。

また意見があれば市役所に送ってほしい。今後の取組を検討していただき、半年後ぐら

いだと思うがまた審議会で報告いただきたい。

全ての議事が終了したので進行を事務局に返す。

■事務局（進行） ご意見を今後の計画づくりに反映させていく。

6. その他

■事務局（進行） 特にその他の議題はないのでこれで議事を終了する。

7. 閉 会

■副会長 職員の努力により減量、再利用が進んでいると実感した。令和14年までの基本計画が達成できそうだ。ただ、気を抜くとすぐに崩れるので、委員は引き続き市に意見を言い監視をするようお願いします。これで終了する。

〔 閉 会 〕